

## 神奈川県立保土ヶ谷養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	平成30年度 神奈川県立保土ヶ谷養護学校 第4回 学校運営協議会		
開催日時	平成31年2月26日(火) 午前9時30分～11時30分		
開催場所	保土ヶ谷養護学校 保護者控室		
(役職名)出席者	副会長：浅野 和則 委員：栗原 敏郎、大上 和成、坂本 知子、片岡 充彦 事務局：向井 博幸、樋笠 晴美、本間 修治、石塚 いづみ、村山 知美、三島 賢治、柏原 旭、川口 圭子 オブザーバー：藤田 肇(特別支援教育課)		
次回開催予定日	平成31年5月下旬 午前9時30分～11時30分		
問い合わせ先	神奈川県立保土ヶ谷養護学校 副校長 向井 博幸 TEL 045-714-0581 FAX 045-742-9716 フォームメール(※下記の箇所をクリックすると、お問い合わせフォームをご利用いただけます) <b>神奈川県立保土ヶ谷養護学校のホームページ(お問い合わせフォーム)</b>		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	/
審議(会議)経過	○開会 1 副会長挨拶 ・過半数の出席による本会成立を確認。 ・配付資料確認。 ・本会の公開原則とホームページによる事前告知確認。 2 校長挨拶 ・出席御礼。学校評価部会での協議は、次年度の学校運営方針策定につながるもので、ぜひ貴重な意見をいただきたい。 ・また、学校農園を見ていただき、その活用について意見をいただきたい。 3 学校評価部会(年度末評価報告) (副校長) ・今回は各校務グループ、指導グループから提出された評価を学校目標に合わせてまとめた。 ・資料の見方を説明。本日いただくご意見は「学校関係者評価」としてまとめられる。また、3月の職員会議で全職員に周知され、総合評価作成となる。  <b>【学校目標1】</b> 学びの連続性と、わかりやすい授業実践について (副校長) ・タブレット端末の利用回数が前年度を大きく上回った。		

・実際の活用事例を情報担当より説明する。

(情報担当)

- ・タイムタイマーで持ち時間を視覚的に訴えかけるアプリ、コミュニケーションツールを手順書として活用したり自分の発声の代わりに使ったりできるアプリ、ごほうびアプリでできたことを評価してもらえる取組み、会計作業を分かりやすくするアプリなど。
- ・学校では使用が増えているので、今後は家庭とも協働して使えるようになるとういと考えている。

(委員 A)

- ・アプリは教員が作るのか。→専門の人が開発。教員のニーズを聞いてもらえることもある。
- ・学部によって使うものを換えるのか→本人に合ったものを相談しながら使っている。

(委員 B)

- ・着替えの手順を示すアプリについて、「着替え」より、動作を細かく、一つひとつ手順を示したほうが分かりやすいのでは。→ご意見を教員に伝えたい。

(副会長)

- ・iPad は個人もちか。→児童生徒3人あたりに1台、県から支給されている。
- ・本当は一人1台がよいのではないか。テレビは各教室にあるのか。→7台を運用して使用している。

(副校長)

- ・アンケートでは、iPad 等の使用について、評価が最下位。活用しているのに家庭に伝わっていないところが課題である。

(教育支援 GL)

- ・授業作り支援シートについて。年次研修等 30 回の授業で使用し、授業者全員から肯定的評価を受けた。シートの利用で、他の教員との相談に役立ったとの意見も。元のは 55 項目あったので、活用しやすくするため、内容をまとめ、「ほどう UD 授業ベーシック 11」とした。

(副会長)

- ・UD とは？→ユニバーサルデザインのことである。あると便利な、クラスみんなに役に立つことを意味する。

**【学校目標2】個別教育計画を活用した、個々のニーズに応じた組織的な指導**

(副校長)

- ・アセスメントのことなど、学部やグループ間での協働、人材育成の観点などが挙げられている。保護者が期待することとして「教員の専門性の向上」が挙げられている。

**【学校目標3】各学部段階で卒業後の生活を意識した教育活動の展開**

(副校長)

- ・職員の職場見学は参加率が大きく向上している。

・見学で知り得た「働く姿」だけでなく、「生活」の部分まで意識することが大切と考  
える。

**【学校目標4】共生社会の実現に向けた積極的な取り組み**

(副校長)

- ・コミュニティスクールのミッションも共生社会の実現にある。パラスポーツの取組  
み、学校間交流、公園や道路の清掃、自治会館のクリスマスツリーの飾りつけ、分  
教室のカフェの取り組みなど、様々な展開がみられた。
- ・取り組みはさまざま行ったが、保護者アンケートでは約 70%の肯定的評価で、2  
番目に低評価だった。周知が足りていない面があると思われる。

**【学校目標5】安心安全な学校体制の構築**

(副校長)

- ・保土ケ谷区の指定福祉避難所にはなっていないが、避難する方がいるかもしれ  
ない前提で「安全管理マニュアル」の整備に取り組んでいる。緊急時の対応を一  
つずつ紙面にまとめた「アクションカード」も活用している。
- ・子どもの人権を尊重した指導について、小学部でよい取り組みが見られた。他  
学部にも拡大したい。

(管理運営 GL)

- ・校内にある様々なマニュアルを1冊にまとめて「安全管理マニュアル」とし、4月  
に教員配付、種々の研修場面でも活用する予定でいる。

**【教育活動に関するアンケート報告】**

(教頭)

- ・同じアンケートを、保護者と教員双方に実施した。
- ・保護者アンケートの集計率は66%。昨年度より高くなった。
- ・前年度より、肯定的な評価が向上した。24項目中、20項目が80%以上の肯定  
的評価であった。
- ・否定的評価が5%以上のものは、「情報機器の活用」、「将来に向けた相談しや  
すい体制」、「交流と共生社会」、「パラスポーツイベント」の4項目。情報機器の活  
用とパラスポーツについては、昨年度よりも評価は向上している。更なる周知が課  
題といえる。
- ・記述意見は、21名からあり。
- ・教員のアンケート結果として、保護者よりも辛口の評価が出ているが、傾向は保  
護者とほぼ同じ。
- ・情報機器の活用と共生社会実現への取り組みが課題。
- ・どういうときに誰に相談したらよいか分かりにくい、との意見がある。将来に向け  
た相談体制の整備が必要。
- ・安心で安全な学校体制の構築に関しては、「会計報告」、「防災体制の整備」、  
「人権に配慮した指導」の一層の徹底が望まれる。
- ・「子どもたちが楽しく学校生活を送っているか」、「人権に配慮した指導」につい

ては限りなく 100%になるようにしていきたい。

(副会長)

・ぜひ、平成 29 年度のアンケート結果を見てみたい。よい方向に進んでいるのであれば、数値は低くてもよいのではないか。→(事務局)至急、用意する。

#### 4 学校農園視察

#### 5 休憩

#### 6 学校評価部会報告・協議・承認

##### 【学校目標1について】

(委員 A)

・情報機器の活用について、今後どのような方向で進めていくのか。タイムリーなやり方をマッチングできれば、効果があると思う。先ほどの紹介で、自分の工場で使いたいと思うものもあった。

・保護者の評価が低いのは、タブレットがどのようなものか分からないのかもしれないので、評価が低いことは気にしなくてもよいのではないか。教員の中にも、使い方が分からなくて評価につながらない人もいるのではないか。

(委員 B)

・タブレットを使った進め方は目から鱗が落ちる思いである。幼稚園の園児でも活用できそうなアプリがあった。うまく工夫しながら進んでいくとよい。我々は視覚優位で、目で見ると理解できる。視覚的な支援を使わない手はない。信号も、見て分かるように、天気予報でも見て分かるようになっている。今後、よりよいアイデアを出しながら進めていけるとよい。教員の中には苦手な人もいるだろうから、課題等で活用できる程度にはスキルを上げる必要がある。

・分かる授業はできるということ。できるとやる気につながるし、楽しいからもっとやりたいと発展性のある授業につながる、という視点がとても重要である。

(委員 C)

・学校に来るとき、何かの活動の合間に、普段は落ち着かない子どもがタブレットを見て落ち着いている様子を見た。そこでタブレットの活用について知った。授業参観などでの利用は難しいのかもしれないが、実際に見ると衝撃を受けるし、よく分かるのではないかと思う。

(副会長)

・委員の意見はどれも、とてもよい取組みだったとの評価である。自身もよい取組みだと思う。学校関係者、特に保護者への紹介が必要ではないか。ICTの活用は教員のほうが高評価。PR が足りないと思われる。

##### 【学校目標2】

(委員 B)

・個別教育計画を作るにあたり、どのようなアセスメントがよいか研究し、実践、個別教育計画に反映させているのは素晴らしい。自身の所属では、個別支援計画

を作るときには写真や絵を盛り込んで、本人にもわかるように伝えながら作っている。これからもアセスメントを大切に、客観的な評価を続けてほしい。計画を作って終わりではなく、常に見直しを加えることが必要といえる。

(委員 A)

・個別教育計画の内容がピンと来ないが、保護者の評価も高い。保護者アンケートの評価が高いのはよいことで、貴重な意見だが、一喜一憂することもないのではないか。

(副会長)

・同意見。方向がよいほうにいったら、数値に一喜一憂しなくてもよい。  
・この目標の部分は教員の専門的な部分。計画には見直しが必要という意見はそのとおりだと思う。部署横断的な取組みや人材育成について、教員の専門性の向上は保護者の期待も高く、永遠の課題。研修に努め、専門性の向上に取り組んでほしい。

### 【学校目標3】

(委員 B)

・小中高が卒業後を見据えた指導をすることが大切。教員でも小中学部にいると進路は先のことなのでまだ知らなくてもよいと思いがちだが、小学部のときから卒業後を見据えた進路指導が大切なところである。今年度の進路先見学参加状況がデータで示されているのがよい。  
・できたら見学だけではなく、体験できるようなところがあるとよい。体験してみると実際に卒業後どのようなことをするのか理解が深まるので。

(委員 A)

・これでも見学会の参加はまだ少ない。職員の見学会参加が上がってきたのはなぜか。強制的に参加だったか？前が低かっただけか？  
・清掃技能検定への参加は素晴らしい。初めて聞いた。ぜひ続けてほしい。参加者を褒めてあげて上を目指すなど、目標を持って取り組むのは非常によい活動といえる。

(委員 C)

・PTA 進路委員会の取組みで「先輩お母さんの話を聴く会」があり、小学部から取り組めることとして「みだしなみ」が挙がり、男の子はベルトができるとうい、と聞いた。進路と言われるとまだ遠い感じがあるが、ベルトやハンカチのようなことなら取り組みやすいと思った。

(副会長)

・前年度実績以上の参加率、よい状況にある。学校卒業後に必要になる力と学習内容の系統的整理は必要である。  
・アンケートNo.14・15 に対して、29 年度よりも評価が高くなっている。よい取組みをしているから評価がアップしていると思われるので継続してほしい。高・分では評価が最上位にある。『進路の手引き』と『実習の手引き』を、この後見てみたい。

### 【学校目標4】

(委員 A)

・分教室のあり方のように、共生は当たり前のこと。障害があるからどうということはなく、会社に入れば同じ扱いとなる。段階を追うごとに指導は入るが、特別視はしない。

(副校長)

・学校農園を視察していただいたが、素材として、共生社会の実現に生かせないか、ご意見をいただきたい。

(委員 A)

・視察の中で、「芋煮会」などと言ったが、地域の人に入り込んでもらう環境整備が大切。もったいない。簡単に育てられるもの(サツマイモなど)を収穫したら、地域の人と一緒に食べられるような活動ができればよいだろうか。

(委員 B)

・パラスポーツの企画運営は素晴らしい。なかなかあのような活動の計画は難しいところだろう。近隣高等学校の吹奏楽部演奏会も続けてほしい。

・外へ出て行くには、小さなことから始めて地域に根ざしていくことが大切ではないか。自身の所属の「トイレ貸します」の幟は、とても生かされた経験がある。そこから、地域の方の発達の相談が寄せられるようになった。時間がかかる地道な活動だが、少しずつ根づいている。地域の防災活動や夏祭りにも積極的に参加している。地域資源を探し、だんだん外に出て学ぶことが大切である。

・ホームページがとても充実している。イベントがあるときには報告が出ているし、保土ヶ谷養護学校に行かなくても、学校の様子がとてもよく分かって、アピールに生かされている。係は大変だろうが、ぜひ継続してほしい。

(委員 C)

・アニメーションダンスチャレンジ教室に参加した。体を動かすことが苦手な子どもでも参加できた。もっとみんなに活動を知ってほしい。

・作業班バザーにも参加した。大根がすぐに売り切れて、小さなものしか残っていなかった。大根だけでなく白菜など、簡単にできるものはあるので、広げてほしい。ビニールハウスがほしいほどである。前庭に店を出し、地域の人に販売できないかなど、いろいろアイデアを考えている。

(副会長)

・連携支援グループの活動内容が素晴らしかった。全体の中で下から2番目の低評価だったとまとめるのは自虐的すぎる。8.2%の上昇を評価してよい。70%の目標設定が高すぎるのではないか。どのアンケート項目も、数値が大きく向上していることを、評価として書いてほしい。

#### 【学校目標5】

(委員 B)

・人権に配慮した教育実践について、昔に比べるといろいろな人が学校に入れるようになっているので、外部の人に普段それでよいと思っている指導・支援を客観的に見てもらうとよい。いろいろな人に授業場面を見てもらうことが大切といえる。

・最も大切なのは説明責任である。授業でやっていることを、きちんと説明できな

ければならない。自分たちでやっていることの根拠から説明できることが大切である。学校はまだそこまでいっていないと思われるが、授業の説明責任がきちんとなされるよう、今後も取り組んでほしい。

(副会長)

・今の意見は学校目標1や2に通じるかもしれない。

(委員 A)

・アクションカードに、スマホの位置情報の活用などは盛り込まれていたか。自身の所属では、不明になってしまった社員の捜索の経験がある。何かあったときに後を追えるような準備は有効である。家庭との連携で、今後組み込めないだろうか。

(委員 C)

・GPS 機能について、小学校では黄色い小さな装置をランドセルにつけておくと、常に検索できるものがある。衝動的に校外に出てしまう子どもにはつけてみるのもよいかもしれない。

・人権のことについて、小学部6年間の間に、大きな声で怒鳴ったりしている教員を見かけたことがあったが、去年・今年は見えていない。大きな声を出しても、子どもには理解できないので、今の取組みを継続してほしい。

(委員 B)

・福祉の中でも人権は大切ととらえている。自身の所属では、弁護士を呼んで「優しい支援・厳しい支援」など、自分たちで話し合っ人権の研修をしているし、続けていこうと思っている。以前はやってよかったことが、今はいけなくなったこともある。時代の流れに合わせて、不適切な支援はお互いに気をつけ、自分ではよいと思っていることも、周りから指摘してもらわないと気づけない。外部から誰かが入ってもらえるのは大切ではないかと思う。

(副会長)

・安全管理に係る網羅的マニュアルを来年度第1回コミスクで見せてほしい。安全はすべてに優先する。全ての子どもの人権を大切にすることも、同様である。会社でも、弁護士を呼んだ振り返りを実施している。繰り返し取り組むことが大切である。

**【コミスクの名称】**

・「ほどう協議会」を提案。

(浅野副会長)

・学校評価、協議会名称ともに承認の方に挙手を願う。

・全員、承認。

7 事務連絡

(副校長)

・委員の任期は2年間となっている。PTA 会長は人が交代するかもしれないが、来年度も継続していただきたい。次年度の第1回目は5月下旬ごろを見込んでいる。委員向けアンケートで日程調整する。

	<p>7 学校長挨拶 (校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の部会を開いて、今年度の取組みの方向性をご承認いただいたので、次年度の学校目標に活かしていきたい。</li> <li>・いろいろな課題をいただいた中で、学校内で解決できること、関係機関と連携しないと解決できないことを切り分けて考えていきたい。</li> <li>・アンケートの結果について、意味するところをきちんとふまえ、有効性等を考えたうえで提示していきたい。</li> </ul> <p>8 副会長挨拶 (副会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滞りなく議事の進行ができ、承認していただき、感謝する。</li> <li>・教員のアンケート回収率が低い。会社経営の目から見ると違和感がある。先生方にはきちんと取り組んでいただきたい。来年度は回収率が上がるものと思っている。</li> </ul> <p>○閉 会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>※添付なし</p>